

令和4年度 授業改善推進プラン 国語科

学年	観点別	
	知識・技能	思考・判断・表現
1年	・朝読書や図書の時間を活用し、豊かな心情を育てるようにする。 ・読み聞かせなどを通じて言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付かせる。 ・なぞなぞやしりとりなどの言葉遊びを通じて語彙を広げる。 ・多層指導モデル「MIM」を活用して、拗音・促音・長音・撥音や助詞に気を付けて読んだり書いたりすることができるようにする。 ・行事や学校生活の振り返りを行い、作文の機会を増やす。	・姿勢、目線、手の位置などを意識した聞き方を身に付けさせる。 ・身近なことから話題を決め、朝の会にスピーチタイムを設けて重点的に取り組ませる。 ・「かくってたのしいね」を活用し、文を書くときのきまりや約束事を身に付けさせる。 ・順序に気を付けて文を書くようにさせる。 ・日常的に書く活動の時間を確保し、表現力をつけるようにする。 ・話のまとまりや言葉の響きに気を付けて、音読ができるようにする。 ・音読や場面を動作化をすることで、場面を理解し、登場人物の心情を考えさせるようにする。 ・段落があることを知り、順序や事柄に気を付けて内容をつかませるようにする。
2年	・漢字や簡単な熟語や主語・述語などの文法的な知識などを身に付けさせる。またそれらを使って簡単な文を作る。 ・文の中で漢字を使うことが出来るよう、家庭学習などで物語文の視写を課題に出す。 ・多層指導モデル「MIM」を活用して、拗音・促音・長音・撥音や助詞に気を付けて読んだり書いたりすることができるようにする。	・身近なことや経験したことなどから話題を取り上げ、それらの説明や経験を報告できる場を設定し、話したり聞いたりできるようにする。 ・簡単な構成を考えて物語や詩を作ったり、日記、作文、記録文などの書く活動に取り組んだりすることで、事柄の順序に沿って文を書くことができるようにする。 ・叙述をもとに自分の考えを表現する活動を、繰り返し行い、根拠をもって自分で考える力を伸長する。 ・音読や動作化で場面の様子や登場人物の気持ちを読み取らせる。また、言葉遊び歌を中心とした音読用の詩集を作り、家庭学習にして音読を日常のものにする。
3年	・漢字のミニテストやまとめのテストを繰り返し行い、3年生で学習する漢字を定着させる。 ・国語辞典を積極的に活用させる。 ・漢字のへん、つくりなどの構成について知識の定着を図る。 ・ローマ字を読んだり書いたり、PC入力したりする活動を、年間を通して計画的にすすめる。また、キーボード入力が定着するように、タブレットPCを日常的に活用する。	・物語や説明文などでは、叙述を基に登場人物の思いや様子、段落相互の関係を考える活動をさせる。 ・ペア・グループで交流する活動を設定し、友達との考えの違いに気付くようにする。 ・主題や要旨は何かを考えながら文章を読ませる。 ・段落や、話のまとまりに気をつけながら文章を書かせる。 ・作文、感想文など書く活動については発達段階に応じて、指導内容を計画し、充実させることで書く力を高める。 ・相手を意識して話をさせる。 ・日常の学習の中では、ノートに自分の考えを書いたり、ペア・グループで話し合ってから発表したりさせる。 ・聞き手は、話し手が何を話そうとしているかを考え

4 年	・漢字や言語については繰り返し学習した後、確認テストを行う。必要に応じてさらに反復練習をさせる。 ・国語辞典、漢字辞典を日常的に使わせることで言葉に対する関心を高め、語彙や知識の拡充を図る。また、日常的に活用を促す。 ・毎月課題を変えて暗唱文に取り組み、様々な言葉に触れる機会をもつ。	・目的意識をもち、集めた資料を比較したり分類したりして、伝えるために必要な事柄を選んで話せるように指導を工夫する。 ・学級全体で話し合う活動をすることで、互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめ話し合えるようにする。 ・必要な事柄を記録しながら聞かせることで、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心をとらえられるようにする。 ・作文、感想文など書く活動については、構成を考えてから書き始めたり、組み立て方を学んだりすることで書く力を高める。 ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書かせる。 ・物語や説明文などの「読み」の学習では、課題を明確にし、何について課題解決を図るのかをはっきりさせて読み取らせるようにする。 ・教科書の本文にサイドラインを引かせることで、叙述を基に登場人物の心情や様子を読み取る。
5 年	・新出漢字の指導を計画的に行い、小テストなどを通して理解と定着を図る。 ・下学年までに学習した漢字についても、新聞や短作文の中で適切に使えるよう、指導の充実を図る。 ・国語辞典を日常的に使うようにし、語彙の拡充を図る。	・組み立てメモをもとに話の意図をはっきりとして話すことができるよう指導の工夫を図る。 ・聞く際には、話の意図や伝えたいことを考えながら、話の大筋や要点を捉えられるよう指導の工夫を図る。 ・朝のスピーチなど、話す・聞く活動の日常化を図る。 ・新聞づくり、短作文づくりを国語の学習を中心に全教科・領域で積極的に行い、書くことの日常化を図る。 ・一番伝えたいことが読み手に分かるよう、表現の工夫についての指導を行う。 ・中心人物の心情の変化（物語文）、要旨と筆者の主張（説明文）の読み取りを中心に、児童が自ら読み取る。
6 年	・新出漢字の指導を計画的に行い、小テストなどを通して理解と定着を図る。 ・下学年までに学習した漢字についても、ミニ新聞や短作文の中で適切に使えるよう、指導の充実を図る。 ・国語辞典を日常的に使うようにし、語彙の拡充を図る。	・話の意図を考えながら聞いたり、伝えたいことを明らかにして話したりすることができるよう、朝の会のスピーチや国語の授業などを通して指導をする。 ・新聞づくり、短作文づくりを国語の学習を中心に全教科・領域で積極的に行い、書くことの日常化を図る。 ・中心人物の心情の変化（物語文）、要旨と筆者の主張（説明文）の読み取りを中心に、児童が自ら読み取る力が身に付くような指導の工夫を図る。 ・読み取ったことを短文でまとめる、要旨を捉えるなどの活動を行い、それらを小集団で交流する中で、読み取る力の向上を図る。

主体的に取り組む態度

- ・国語に関心をもって楽しく読んだり書いたりすることのできる教材を工夫する。
- ・音読を重視し、感性豊かな心を育てるようにする。
- ・自分の思いや観察したことなどを書くことに意欲をもたせるようにする。
- ・司書教諭、保護者ボランティア、図書委員会、担任などによる読み聞かせを通して読書活動に興味をもたせるようにする。

- ・保護者ボランティア、図書委員会、担任などによる、昔話や神話、伝承、または年齢に応じた物語の読み聞かせを通して、読書活動に興味をもたせるようにする。
- ・学習している単元に応じて平行読書出来るよう、同じ動物が登場する作品や、同じ作者の作品などを提示する。

- ・保護者ボランティア、図書委員会、担任などによる読み聞かせを通して読書活動に興味をもたせるようにする。
- ・言葉遊びを通じて語彙を広げ、言葉の面白さを感じられるようにする。
- ・物語の登場人物の気持ちや変化について友達と考えを伝え合うことで、意欲が高まるようにする。
- ・音読カードに音読のメリットを明記し、目的意識をもたせながら学習できるようにする。
- ・タブレットPC「まなびポケット」「スクールタクト」を有効活用し、自分の考えと友達のが相互に閲覧できるようにすることにより、学習意欲を高めていく。

- ・みんなで積極的に意見を言い合える雰囲気をつくる。
- ・読書に親しむため、朝読書の充実やPTAとの協力で読み聞かせをしたり、図書委員会の読書週間の取り組みと連携したりするなど、多面的な活動をする。
- ・音読カードに音読のメリットを表記し、目的意識をもたせながら学習できるようにする。

- ・読書や新聞を通して国語に対する関心を高めさせる。
- ・ICT機器を効果的に活用し、物語の世界に触れる機会を増やしたり、友達の考えをもとに話し合ったりする機会を多くもたせ、意欲を高めていく。

- ・デジタル教材を活用し、文学的文章の世界や説明的文章の背景などを紹介するなど、指導の充実を図る。
- ・読書の機会を多く設けたり、新聞を活用した授業（NIE）を積極的に取り入れたりするなど、国語に関する関心をもたせる。
- ・意見文や提案文を書いた後、友達の作品を読み合う場面を設定し、互いの考えに触れさせる。
- ・スクールタクトを活用し、自分の考えを友達と交流する場面を多くもたせる。